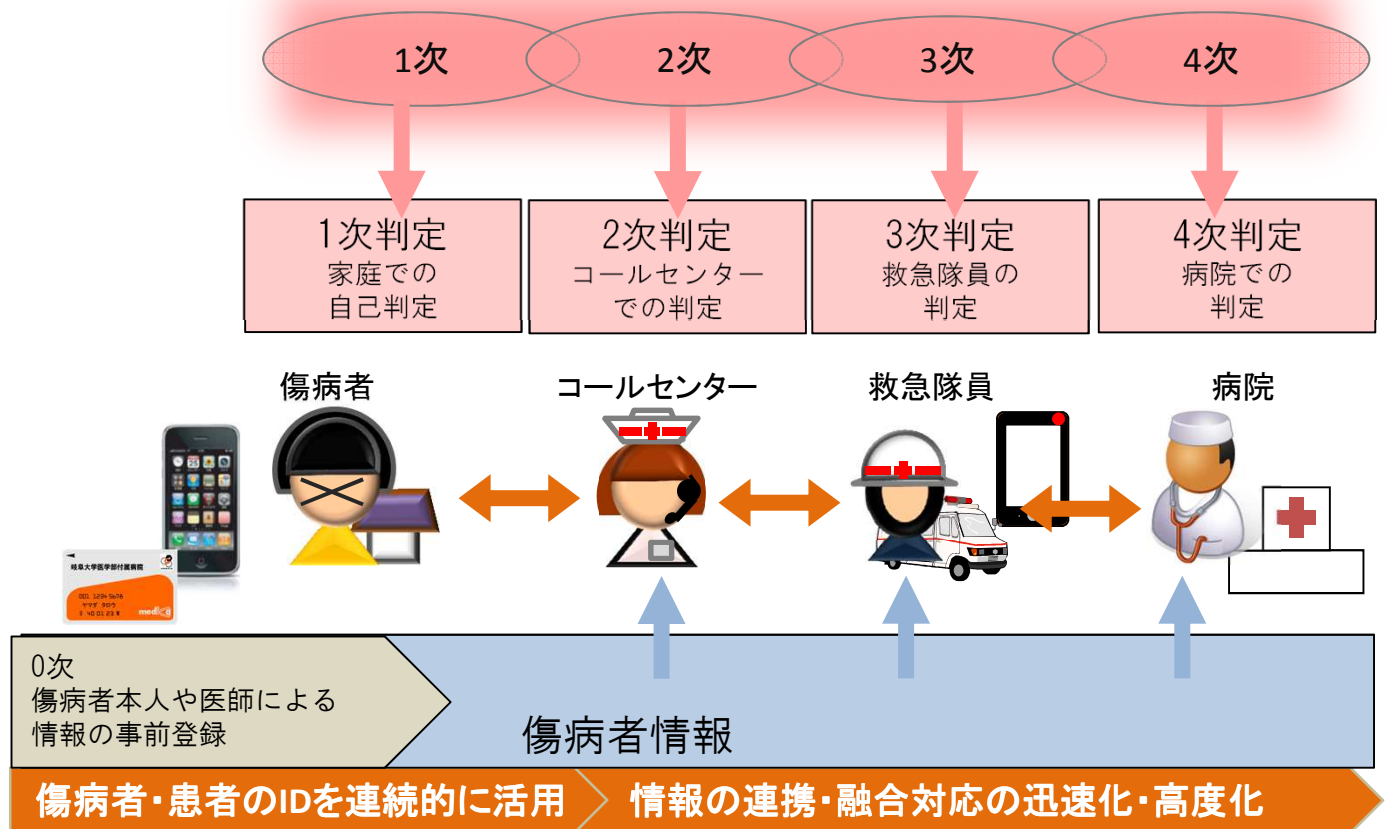


「階層別トリアージ運用事業」のビジョン

「階層別トリアージ運用事業」では、傷病者が自分で行うトリアージ、コールセンターによるトリアージ、救急隊が行うトリアージ、病院で行うトリアージを階層として捉え、それぞれの階層のトリアージプロトコルを整備するとともに、傷病者の情報を階層間で連携利用し一貫した情報環境を構築することを目指しています。

今回は岐阜県の医療情報カードシステムと、札幌市のテレフォントリアージの取り組みを取り入れ、特にプレホスピタルの分野におけるプロトコルの整備拡充を行っています。

トリアージプロトコル



各階層に応じたトリアージ運用と傷病者情報連携のイメージ


＜平成22年度の事業範囲＞

- ・ 傷病者が自分で緊急性を判断することができるセルフトリアージシステム、コールセンターのヒアリングによる判定を補助し、救急隊員と搬送先へ必要な情報提供を一貫として行う医療機関への搬送と緊急度の判定を支援するシステムを構築しています。
- ・ 既存の医療情報カードを救急隊員や医療機関が読み取るために、操作性に優れた端末機器の開発を行っています。

傷病者情報の事前登録とプレホスピタルトリアージのしくみ


- ・セルフトリアージシステム、医療情報カードシステムは、傷病者情報をあらかじめ登録しておくことで、緊急時に傷病者情報を迅速に取得することができます。このシステムは、傷病者の意識レベルが低下している場合などコミュニケーションに障害がある際にも有効です。
- ・セルフトリアージシステムに事前に入力、登録した名前、連絡先、既往等の情報や過去の相談情報は、名前やID、電話番号等をキーワードにして、コールセンターでの閲覧が可能です。

セルフトリアージシステム

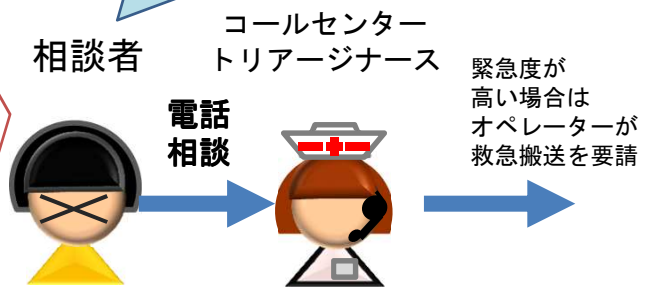


- ・使用者（医療者を含）が名前、血液型、既往歴等を登録します。
- ・パスワードを設定する事で、1つの端末に複数名の情報を登録する事ができます。
- ・相談者が情報を入力すると緊急度とアドバイスが表示されます。

医療情報カードシステム



- ・医療機関で、名前、血液型、過去の既往等を登録します。
- ・専用端末を使い、救急隊や医療施設で、登録内容を確認できます。



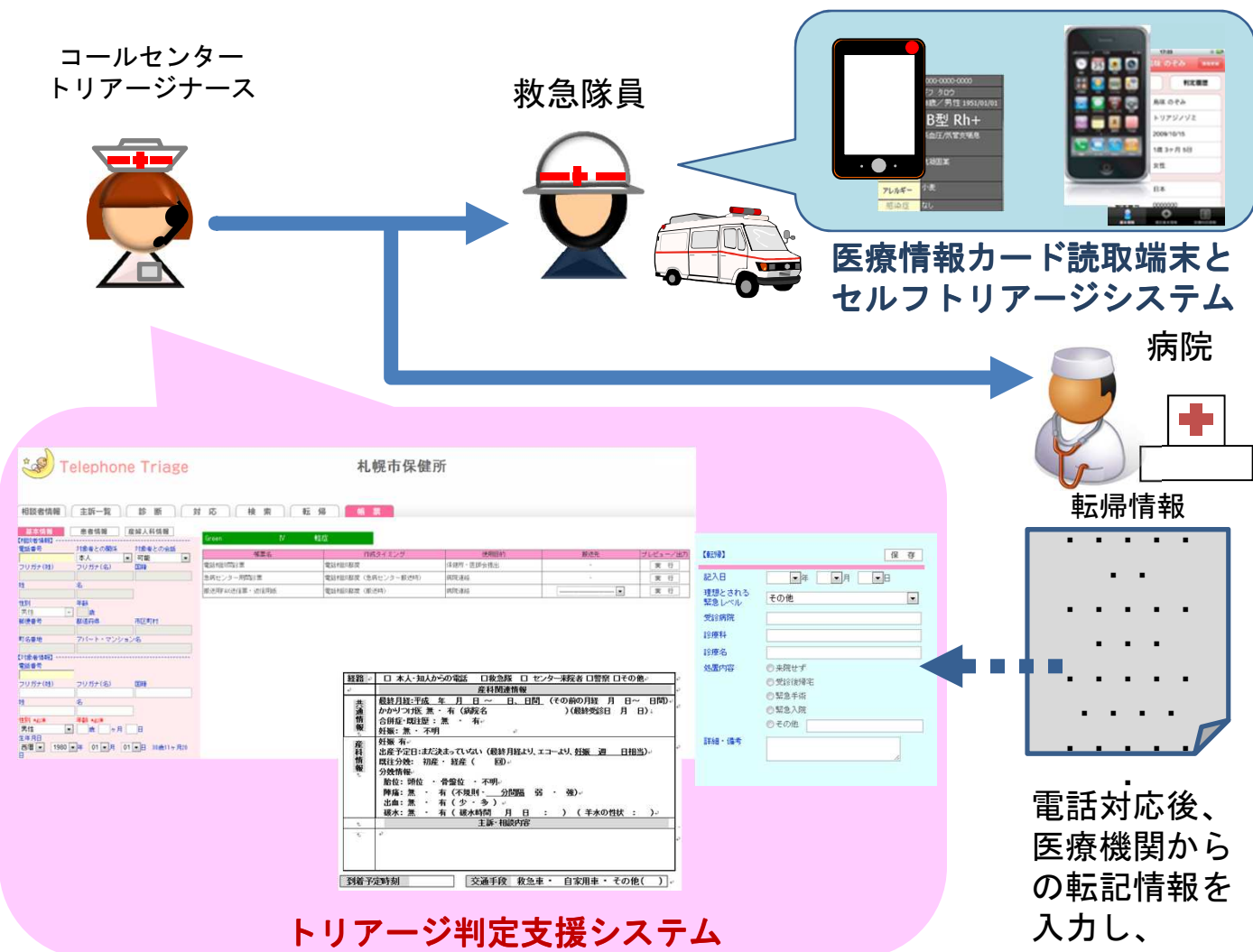
トリアージ判定支援システム



- ・身体情報と主訴から症状の問診を行い、予測される疾患と適切な診療科の選定、緊急度の判定と必要な対応方法を表示します。
- ・問診内容と緊急度の判定に必要な情報は、主訴・症状・身体情報をもとに抽出され、問診情報は1画面で収集できるようにしています。
- ・症状に応じた問診内容とトリアージプロトコルを整備しており、システムに沿って質問を行う事で、問診の漏れを防ぎ、きめ細かい搬送情報を収集することができます。

傷病者情報連携のしくみ

- ・搬送要請を行った医療機関、救急隊員の利用も可能です。搬送先の医療機関等送信先ごとに必要なフォームをあらかじめ設定しておくことで、それぞれの場合に適した情報を、所定の様式で送信することができます。
- ・救急隊の搬送対応にも応用が可能です。バイタルサイン、主訴からの問診内容を入力することで、症状別に必要な内容が網羅された情報を効率的に入力しアドバイス・傷病者引継書の作成を行うことができます。
- ・患者が医療情報カードを保持している場合には、救急隊員は医療情報カード読取端末にて、傷病者情報を取得することができます。セルフトリアージシステムの利用者はコールセンターを介して情報を取得することができます。



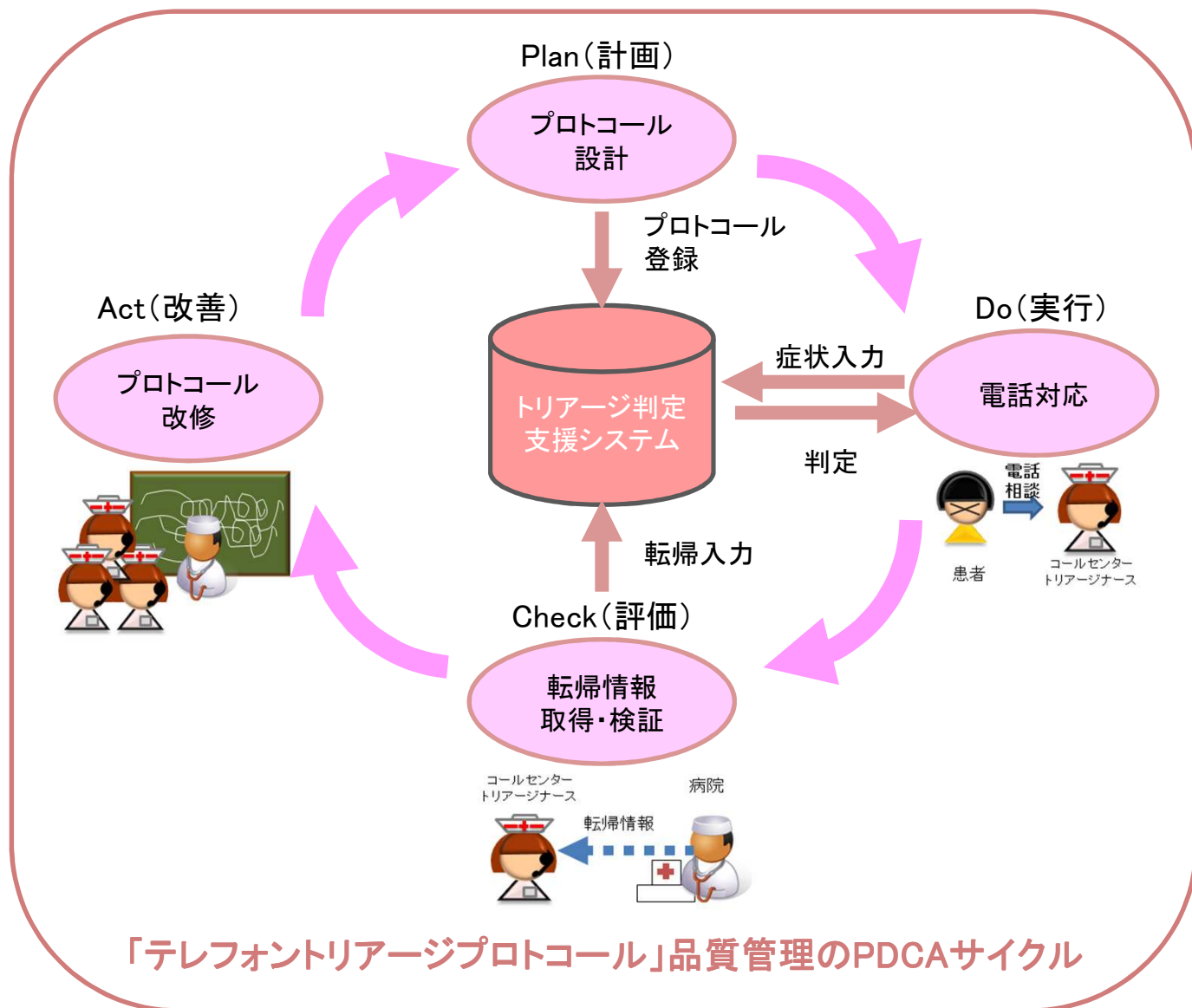
電話対応後、医療機関からの転記情報を入力し、履歴管理を行います。

- ・相談者・傷病者の情報は、定期的に転帰情報を収集し問診履歴と対応と合せて検証します。不整合が発生している場合は問題を改修し、トリアージプロトコルに反映していきます。
- ・各種所定様式にあわせて、システムにより各種報告書を自動生成します。

本件お問い合わせ先: (株)シャイニング
Tel: 011-633-0077
E-mail: office@shining.ne.jp
Web: <http://shining.ne.jp/>

「テレフォントリアージプロトコール」のPDCA(品質管理)

電話における、問診情報と緊急度を判断するルールを「テレフォントリアージプロトコール」と言います。「テレフォントリアージプロトコール」の質を維持する為には、履歴管理、検証、改修というプロセスが欠かせません。



- ・ 「トリアージプロトコール（問診と緊急度を判定するルール）」は実際の相談情報を元に検証し、作成されています。
- ・ コールセンターで対応を行った相談者の問診・判定情報、電話対応情報、医療機関へ搬送した場合は診察結果（転帰情報）はすべてトリアージ判定支援システムに記録されます。
- ・ 搬送した相談者と搬送を行わなかった相談者に対しても、対応後の転帰情報をヒアリングします。蓄積された問診情報と判定結果は、転帰情報と照らし合わせ、検証を行います。
- ・ 「トリアージプロトコール（問診と緊急度を判定するルール）」は定期的な改修と医師の監修を受けてシステムへの反映を行います。